恵那市
男女共同参画に関する市民意識調査

（抜粋版）

令和７年１月

目次

Ⅰ　調査の概要……1
　１　調査の目的……1
　２　調査対象……1
　３　調査期間……1
　４　調査方法……1
　５　回収状況……1
　６　調査結果の表示方法……1

Ⅱ　調査結果（市民）……2
　１　回答者属性……2
　２　男女平等に関する意識について……5
　３　家庭生活について……7
　４　地域活動や社会参画について……10
　５　就労・働き方について……11
　６　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）、ハラスメント等について……13
　７　防災について……16
　８　男女共同参画社会に関する施策について……17

Ⅲ　調査結果（事業所）……18
　１　貴事業所の概要……18
　２　女性の活躍推進について……21
　３　貴事業所の育児や介護に関する制度について……23
　４　「ワーク・ライフ・バランス」について……26

Ⅰ　調査の概要

１　調査の目的

本調査は、現行の第２次男女共同参画プランの計画期間が令和７年度に終了することに伴い、本市における男女共同参画に関する意識と実態を把握し、次期プラン策定のための基礎資料を得ることを目的に実施しました。

２　調査対象

市民：18 歳以上 70 歳未満の市民の皆様の中から、2,000 人を無作為抽出
事業所：市内事業所 100 社

３　調査期間

令和６年 11 月 22 日～令和６年 12 月 11 日

４　調査方法

市民：郵送による配布　WEB・郵送による回収
事業所：郵送による配布　WEB・郵送による回収

５　回収状況

種　類	配　布　数	有効回収数	有効回収率
市民	2,000通	780通	39.0%
事業所	100通	53通	53.0%

６　調査結果の表示方法

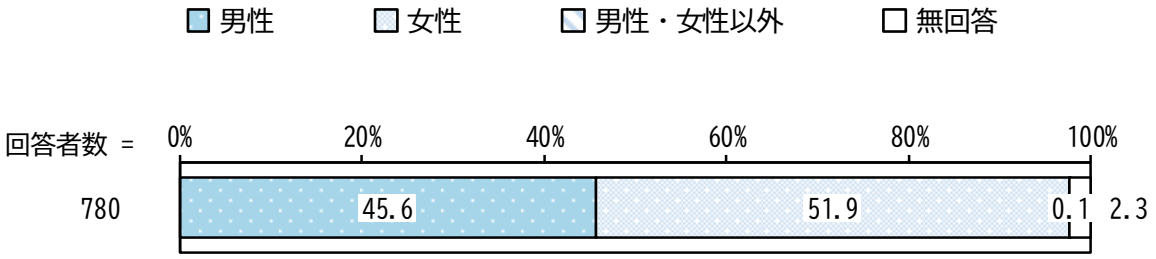
・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第２位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを　　で網かけをしています。（無回答を除く）
・回答者数が１桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が１桁の場合は、コメントを差し控えています。

Ⅱ　調査結果（市民）

1　回答者属性

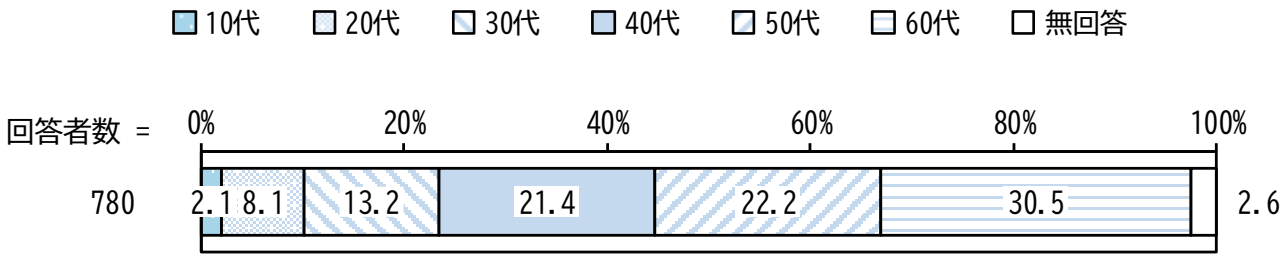
① あなたの性別をお聞かせください。（○は１つ）※ご自身が認識する性でお答えください。

「女性」の割合が 51.9%と最も高く、次いで「男性」の割合が 45.6%、「男性・女性以外」の割合が 0.1%となっています。



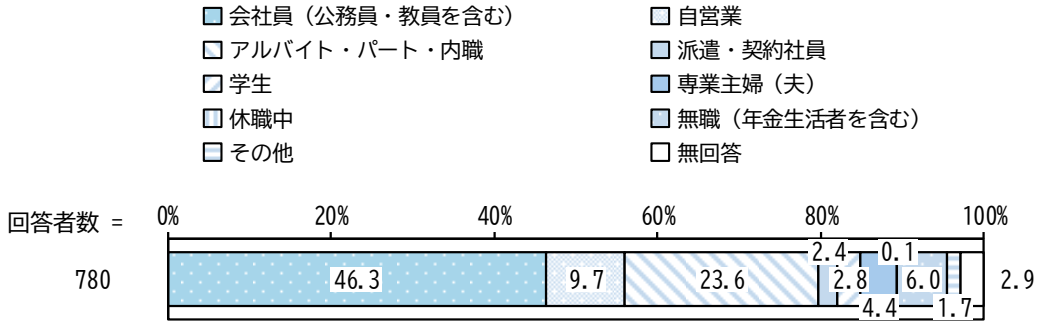
② あなたの年齢は次のどれにあたりますか。（○は１つ）※令和６年 11 月１日時点

「60 代」の割合が 30.5%と最も高く、次いで「50 代」の割合が 22.2%、「40 代」の割合が 21.4%となっています。



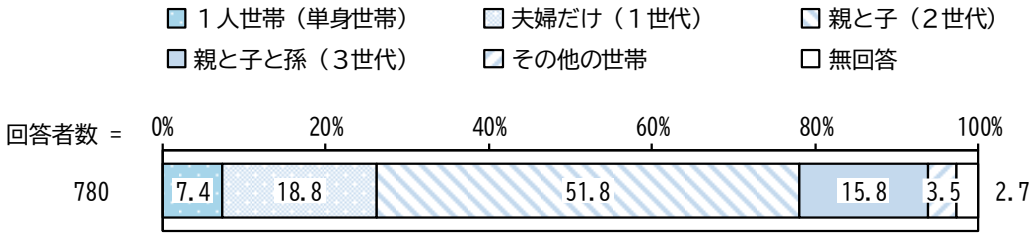
③ あなたは現在、主にどのようなお仕事をしていますか。（○は１つ）※出産休暇や育児休業中の方も、働いているものとお考えください。

「会社員（公務員・教員を含む）」の割合が 46.3%と最も高く、次いで「アルバイト・パート・内職」の割合が 23.6%、「自営業」の割合が 9.7%となっています。



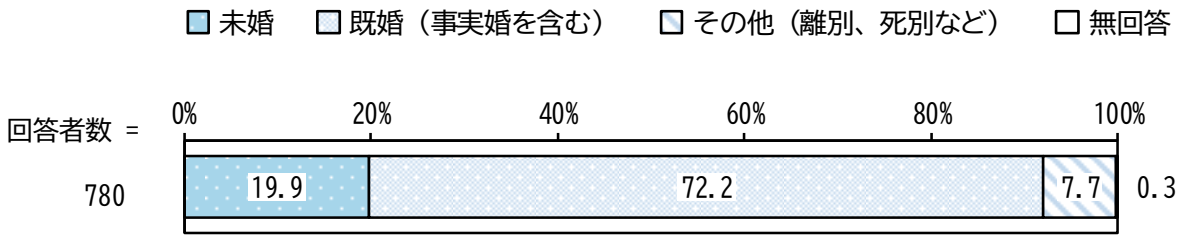
④　あなたの家族構成（同居している家族）は次のどれにあてはまりますか。（○は１つ）

「親と子（２世代）」の割合が 51.8%と最も高く、次いで「夫婦だけ（１世代）」の割合が 18.8%、「親と子と孫（３世代）」の割合が 15.8%となっています。



⑤　あなたは結婚されていますか。（○は１つ）

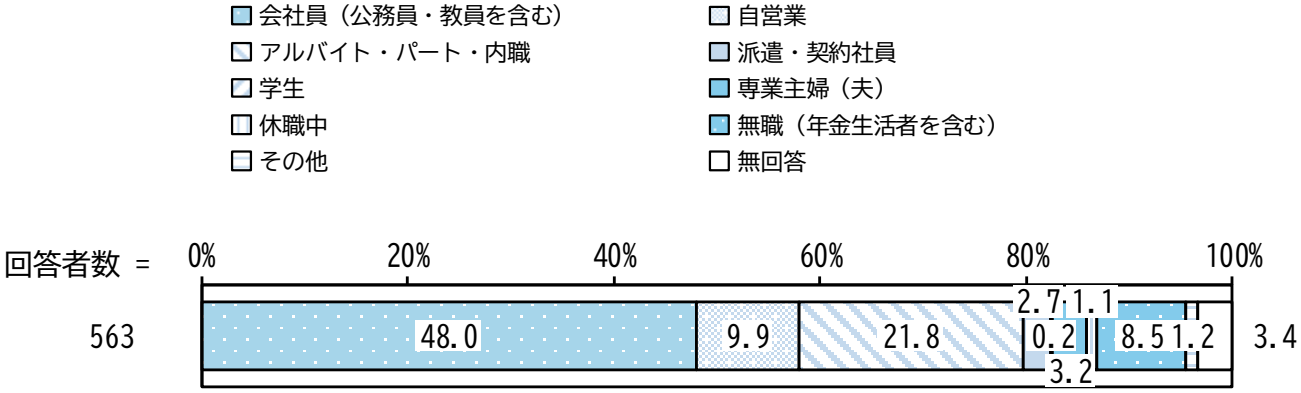
「既婚（事実婚を含む）」の割合が 72.2%と最も高く、次いで「未婚」の割合が 19.9%、「その他（離別、死別など）」の割合が 7.7%となっています。



＜⑤で「２．既婚（事実婚を含む）」と答えた方にお伺いします＞

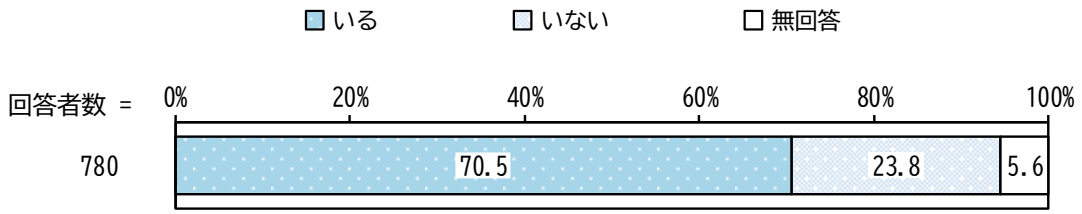
⑥　配偶者・パートナーの方は現在、主にどのようなお仕事をしていますか。（○は１つ）※出産休暇や育児休業中の方も、働いているものとお考えください。

「会社員（公務員・教員を含む）」の割合が 48.0%と最も高く、次いで「アルバイト・パート・内職」の割合が 21.8%、「自営業」の割合が 9.9%となっています。



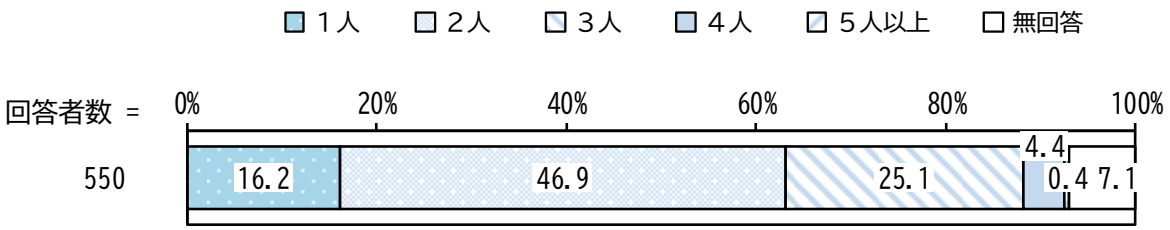
⑦　あなたにはお子さんがいらっしゃいますか。また、お子さんがいる方は、何人ですか。
（○は１つ、数字を記入）

「いる」の割合が 70.5%、「いない」の割合が 23.8%となっています。



お子さんの人数

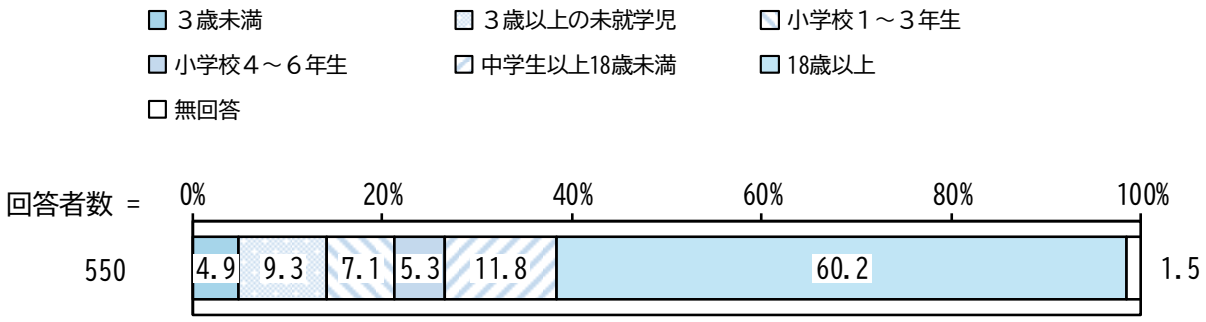
「２人」の割合が 46.9%と最も高く、次いで「３人」の割合が 25.1%、「１人」の割合が 16.2%となっています。



＜⑦で「１．いる」と答えた方にお伺いします＞

⑧　一番下のお子さんについてお答えください。（○は１つ）

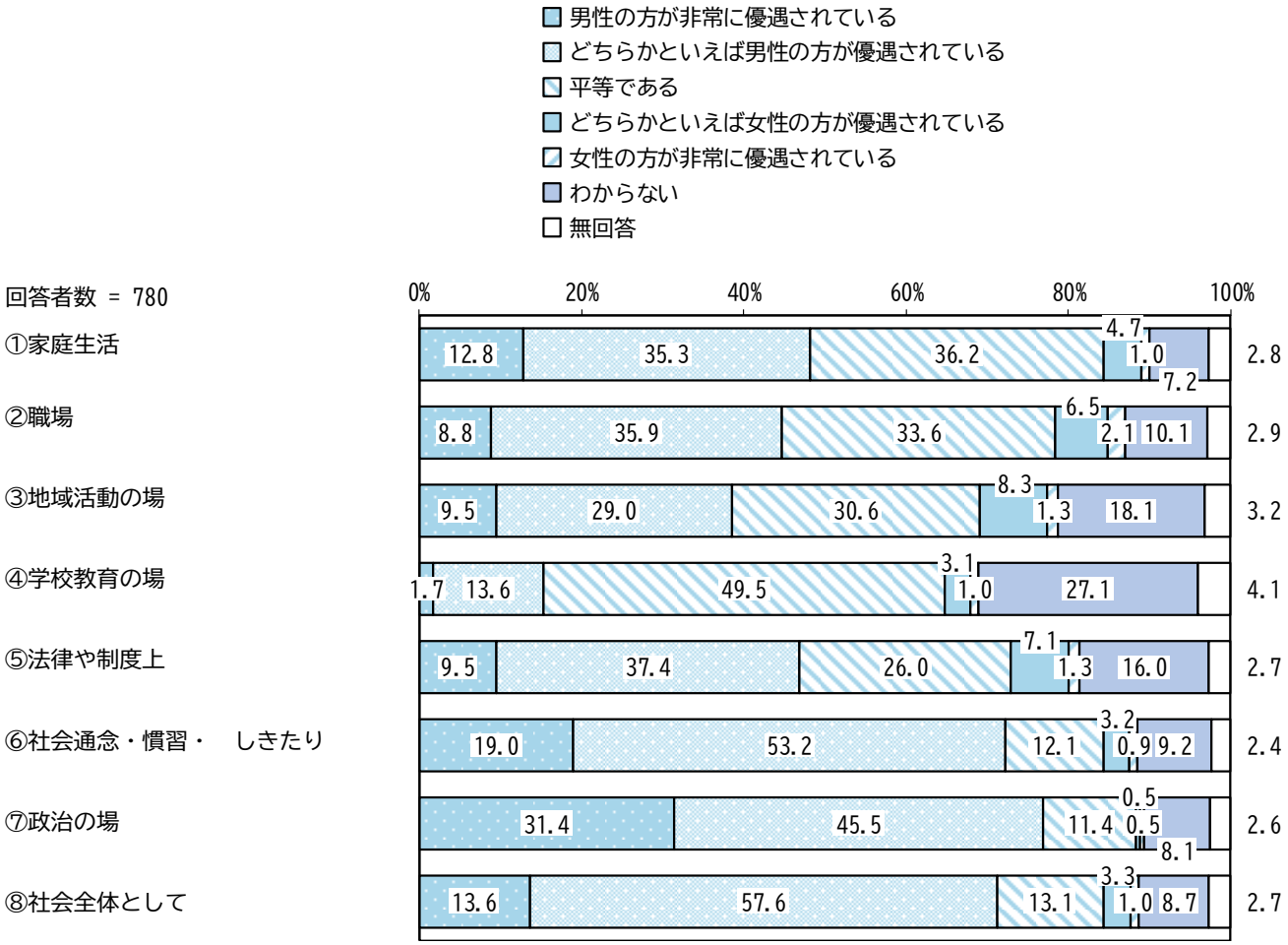
「18 歳以上」の割合が 60.2%と最も高く、次いで「中学生以上 18 歳未満」の割合が 11.8%、「３歳以上の未就学児」の割合が 9.3%となっています。



2　男女平等に関する意識について

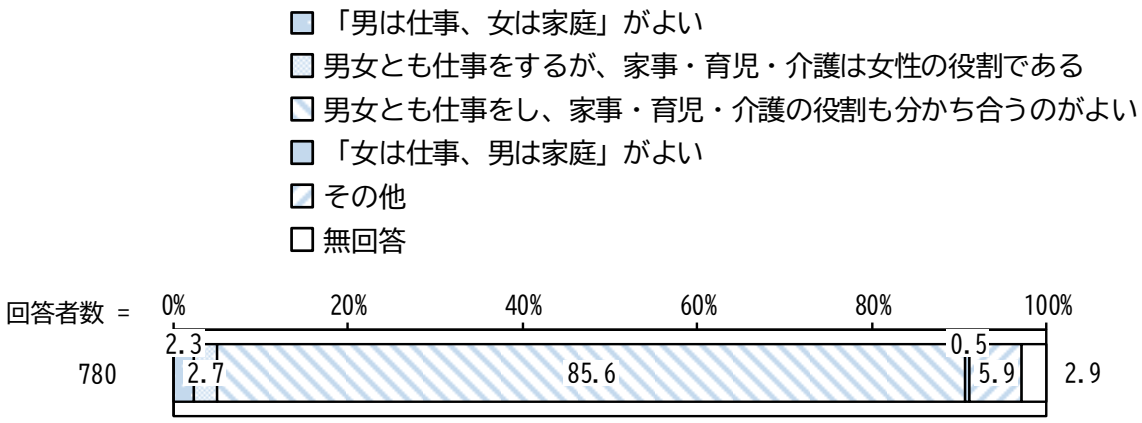
問１－１．次のような分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。（①から⑧まで、○は各項目１つずつ）

『⑦政治の場』で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が、『④学校教育の場』で「平等である」の割合が高くなっています。



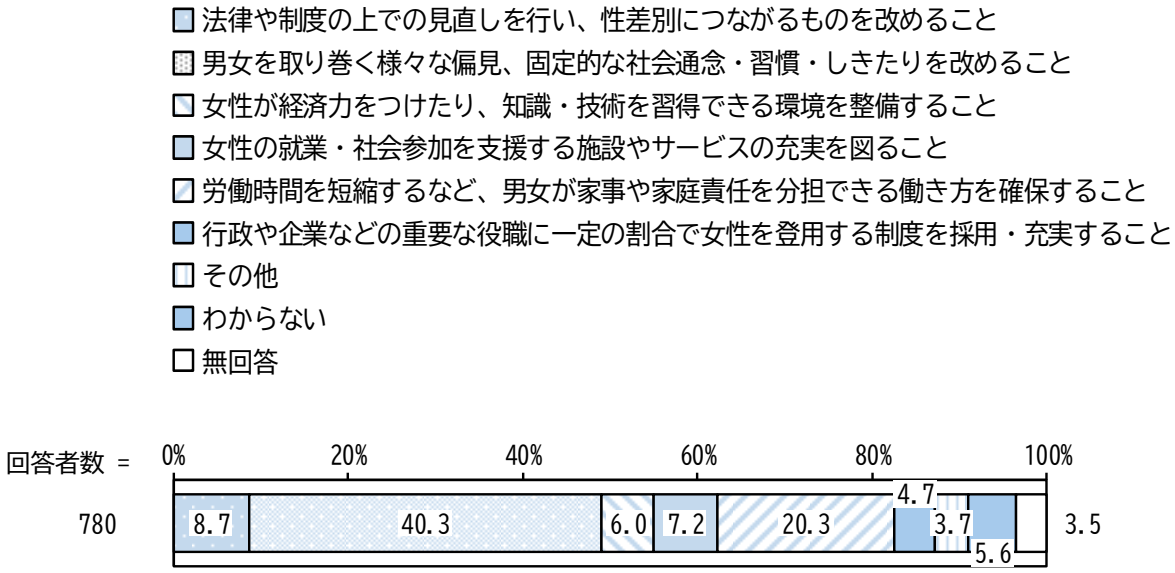
問１－２．「男は仕事、女は家庭」に代表されるように、性別によって男女の役割を決めるような考え方についてどのように思いますか。（○は１つ）

「男女とも仕事をし、家事・育児・介護の役割も分かち合うのがよい」の割合が 85.6%と最も高く、次いで「男女とも仕事をするが、家事・育児・介護は女性の役割である」の割合が 2.7%、「「男は仕事、女は家庭」がよい」の割合が 2.3%となっています。



問１－３．今後、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには、どのようなことが重要だと思いますか。（○は１つ）

「男女を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念・習慣・しきたりを改めること」の割合が 40.3%と最も高く、次いで「労働時間を短縮するなど、男女が家事や家庭責任を分担できる働き方を確保すること」の割合が 20.3%、「法律や制度の上での見直しを行い、性差別につながるものを改めること」の割合が 8.7%となっています。



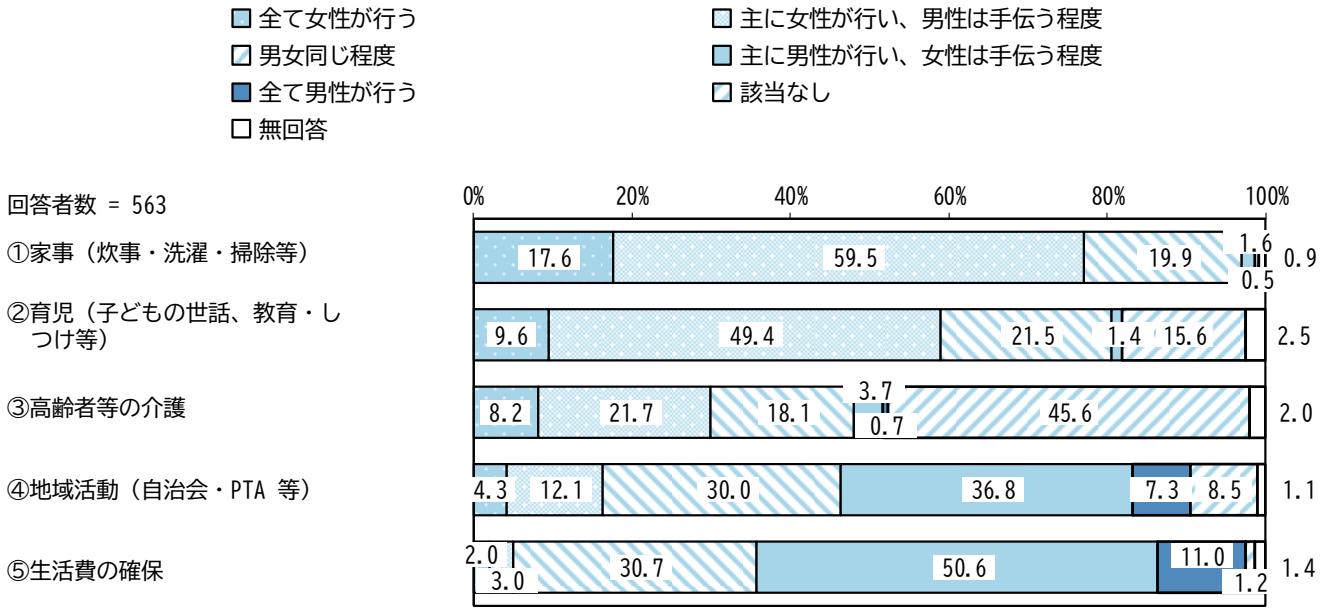
３　家庭生活について

<現在、配偶者・パートナー（事実婚を含む）と同居している方のみ（⑤で「２．既婚（事実婚を含む）」と答えた方）にお伺いします。>

問２．あなたの家庭では、次の①から⑤のことについて、主として誰が行っていますか。（①から⑤まで、○は各項目１つずつ）

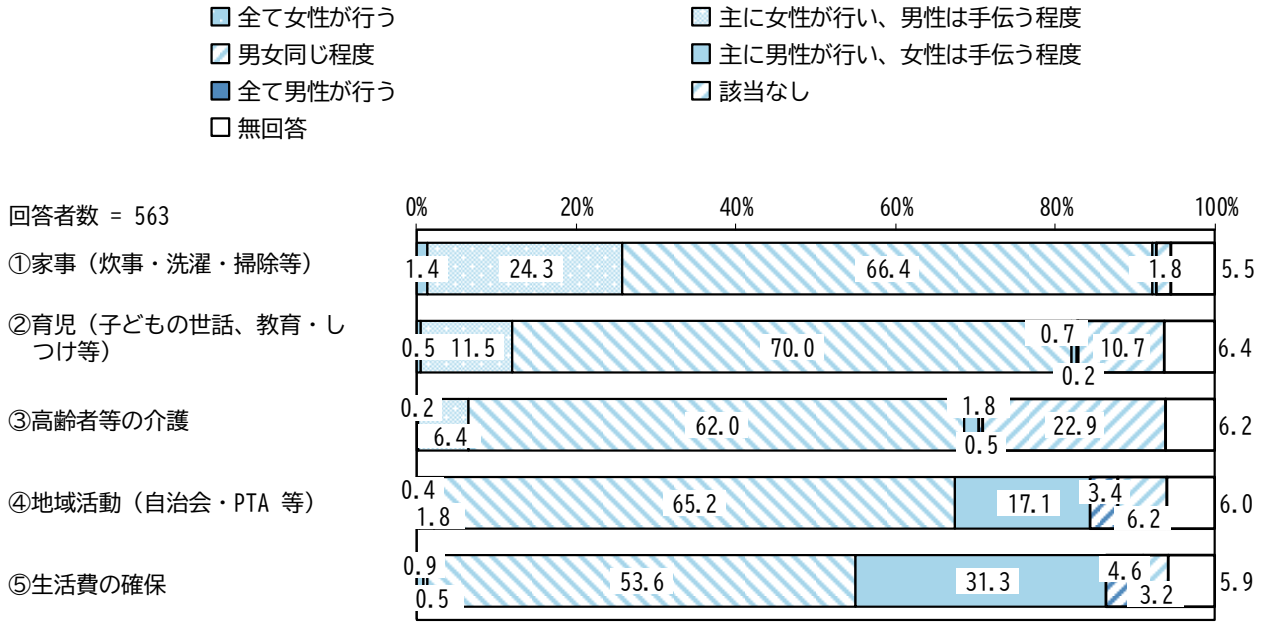
現状

『①家事（炊事・洗濯・掃除等）』で「全て女性が行う」の割合が、『⑤生活費の確保』で「主に男性が行い、女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



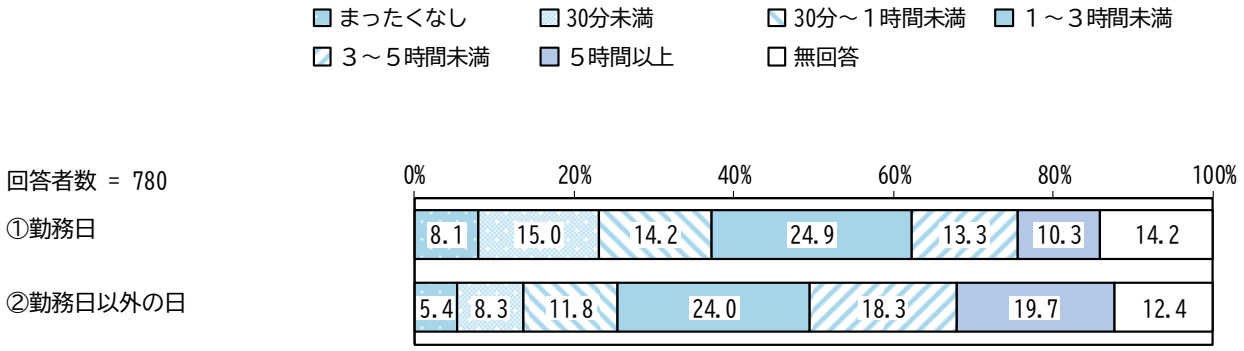
理想

『①家事（炊事・洗濯・掃除等）』で「主に女性が行い、男性は手伝う程度」の割合が、『⑤生活費の確保』で「主に男性が行い、女性は手伝う程度」の割合が高くなっています。



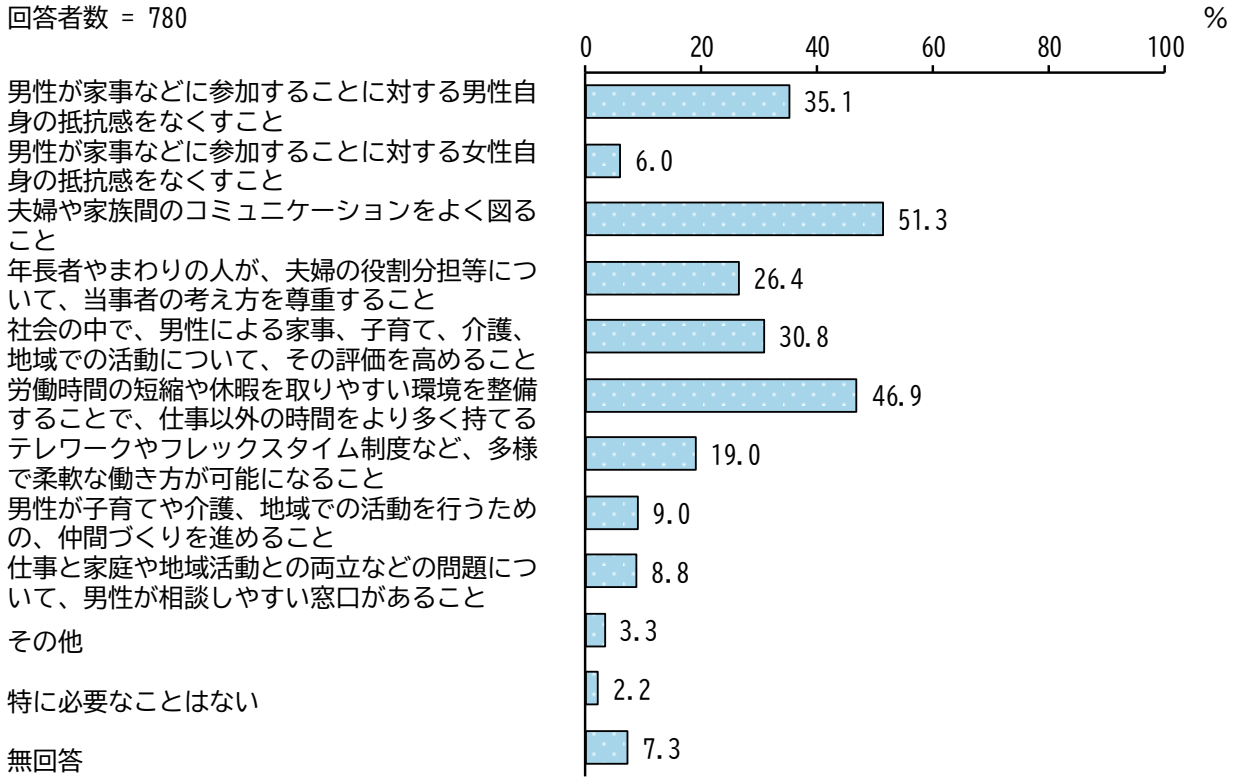
問３．あなたが家事・育児・介護に関わる時間は、１日あたりどれくらいですか。（○は各項目１つずつ）

『①勤務日』で「30 分未満」の割合が、『②勤務日以外の日』で「５時間以上」の割合が高くなっています。



問４．今後、男性が女性とともに、家事、子育て、介護、地域での活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（優先順位の高い項目から〇を３つ）

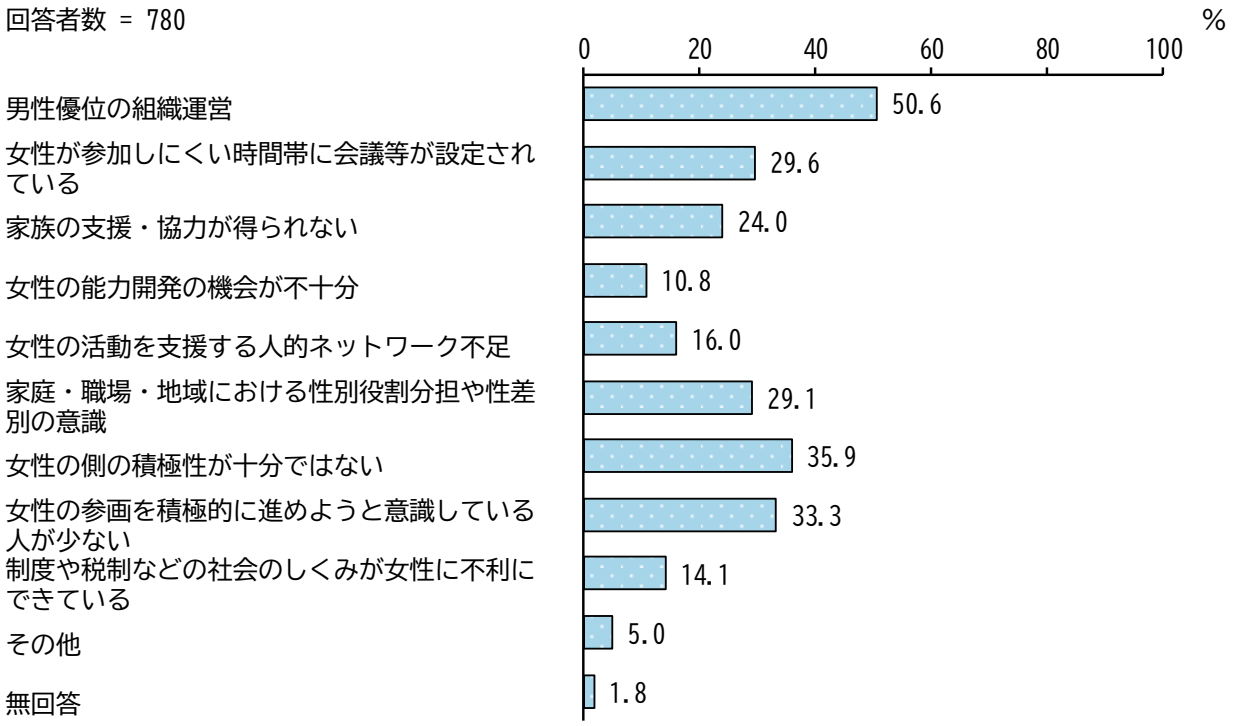
「夫婦や家族間のコミュニケーションをよく図ること」の割合が 51.3%と最も高く、次いで「労働時間の短縮や休暇を取りやすい環境を整備することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が 46.9%、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が 35.1%となっています。



４　地域活動や社会参画について

問５．女性の社会進出は進みつつありますが、町内会や自治会の長、審議会委員や議員等には、まだ女性が就くことが少ないのが現状です。このように、企画や方針決定過程への女性の参画が少ない理由は何だと思いますか。（○は３つ）

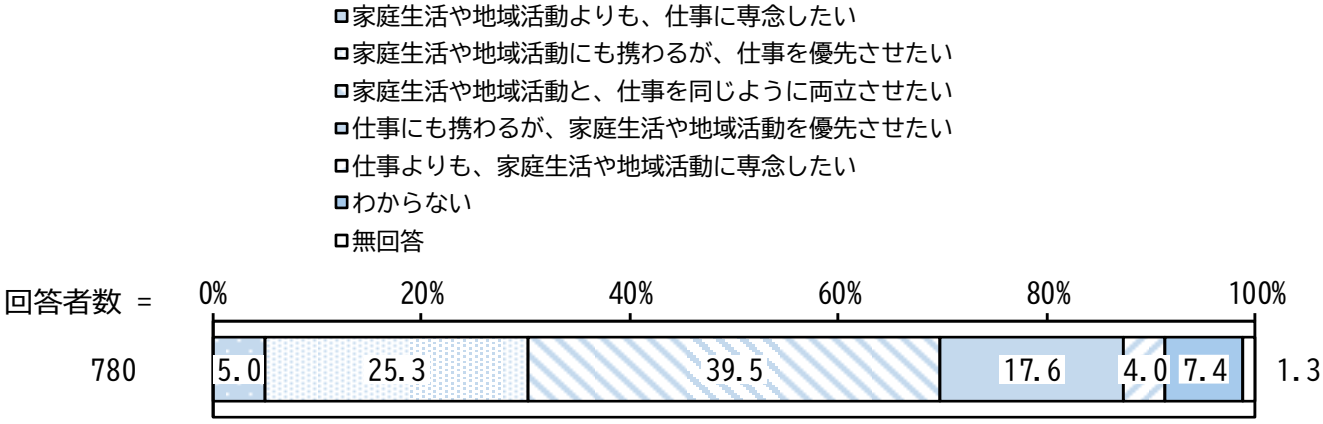
「男性優位の組織運営」の割合が 50.6%と最も高く、次いで「女性の側の積極性が十分ではない」の割合が 35.9%、「女性の参画を積極的に進めようと意識している人が少ない」の割合が 33.3%となっています。



5　就労・働き方について

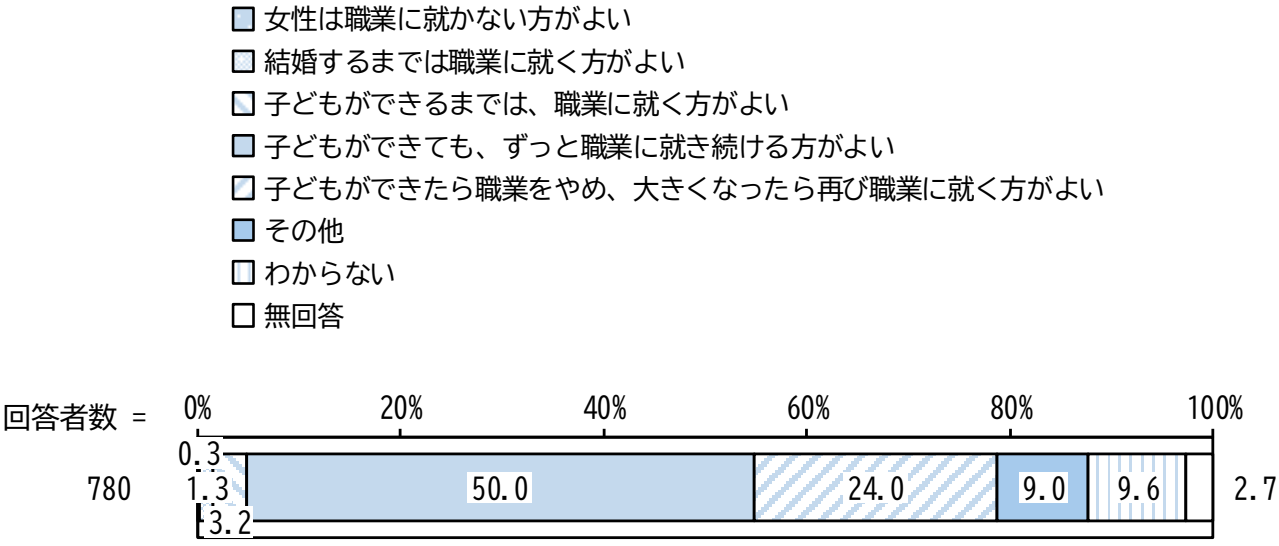
問６．あなたの働き方について、希望に最も近いものは次のどれですか。（○は１つ）

「家庭生活や地域活動と、仕事を同じように両立させたい」の割合が 39.5%と最も高く、次いで「家庭生活や地域活動にも携わるが、仕事を優先させたい」の割合が 25.3%、「仕事にも携わるが、家庭生活や地域活動を優先させたい」の割合が 17.6%となっています。



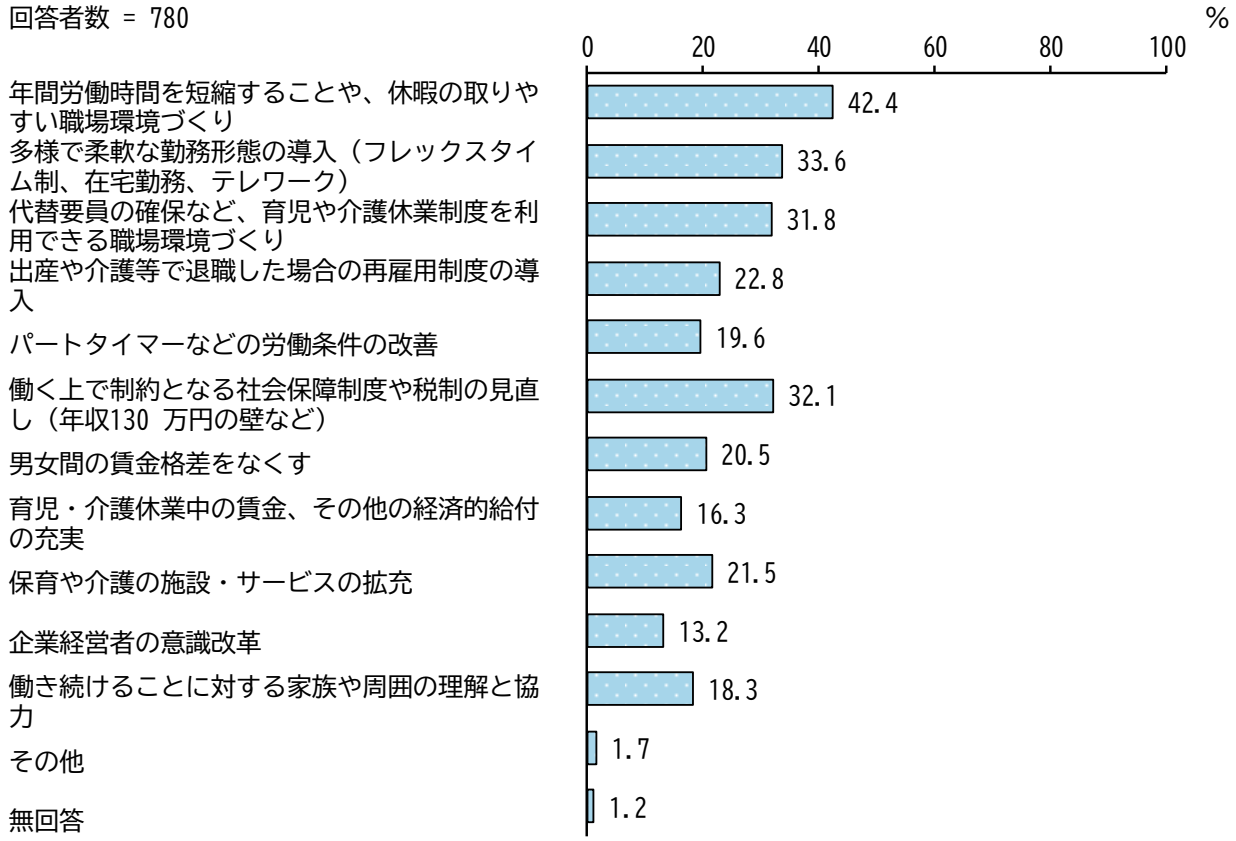
問７．女性が職業（仕事）に就くことついて、あなたはどのように思いますか。（○は１つ）

「子どもができても、ずっと職業に就き続ける方がよい」の割合が 50.0%と最も高く、次いで「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業に就く方がよい」の割合が 24.0%、「わからない」の割合が 9.6%となっています。



問８．それぞれの家庭において、男女が共に「仕事と家庭の両立」をするためには、どのような条件の整備が必要だと思いますか。（○は３つ）

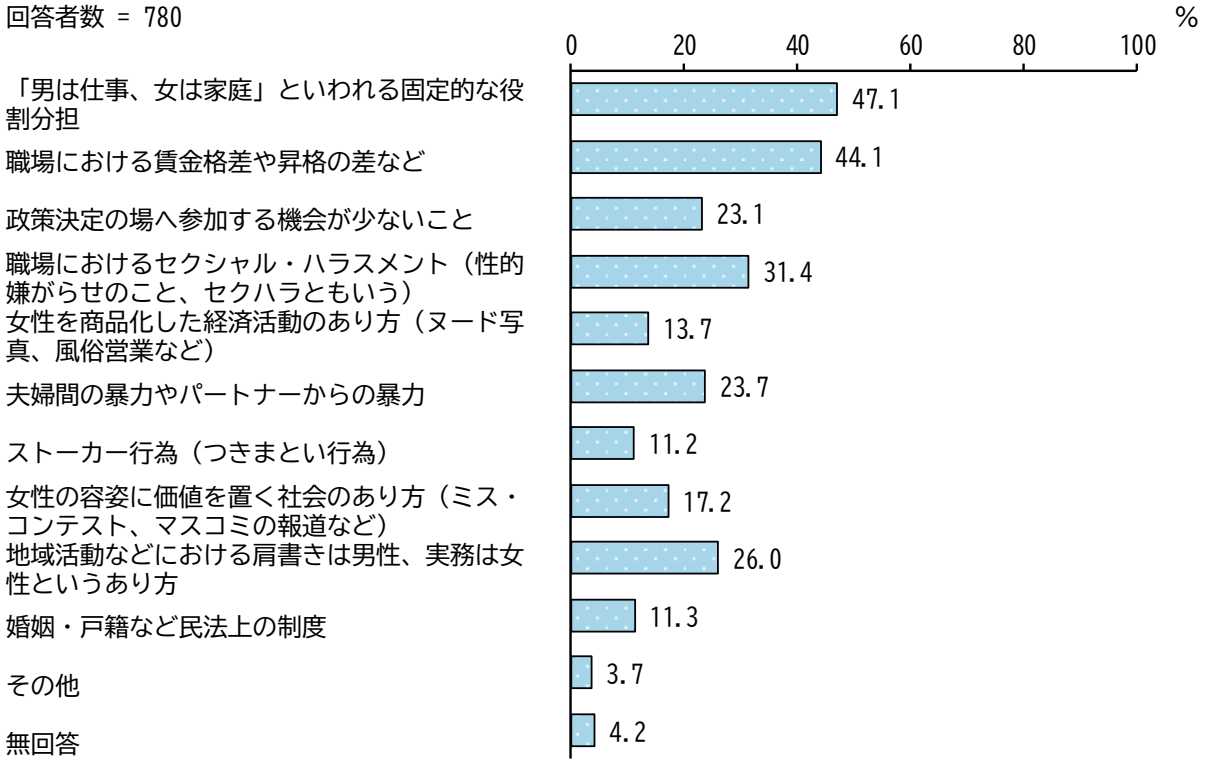
「年間労働時間を短縮することや、休暇の取りやすい職場環境づくり」の割合が 42.4%と最も高く、次いで「多様で柔軟な勤務形態の導入（フレックスタイム制、在宅勤務、テレワーク）」の割合が 33.6%、「働く上で制約となる社会保障制度や税制の見直し（年収 130　万円の壁など）」の割合が 32.1%となっています。



6　ＤＶ（ドメスティック・バイオレンス）、ハラスメント等について

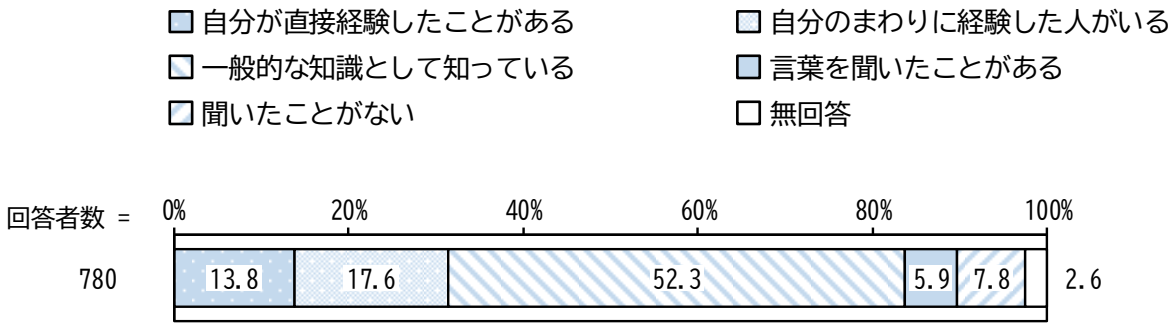
問９．男女の人権が尊重されていないと思うものを選んでください。（特にそう思うものから〇を３つ）

「「男は仕事、女は家庭」といわれる固定的な役割分担」の割合が 47.1%と最も高く、次いで「職場における賃金格差や昇格の差など」の割合が 44.1%、「職場におけるセクシャル・ハラスメント（性的嫌がらせのこと、セクハラともいう）」の割合が 31.4%となっています。



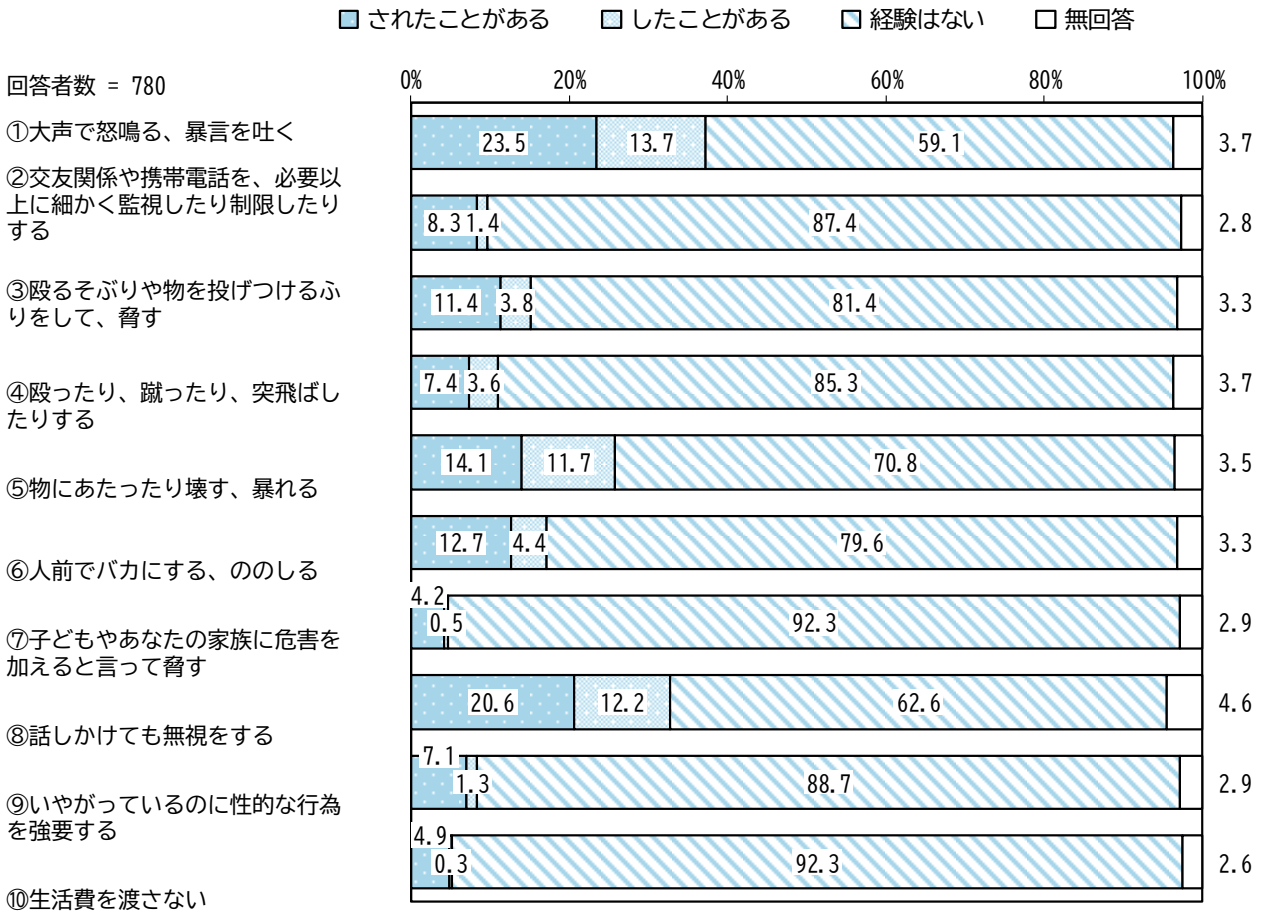
問 10．セクシュアル・ハラスメントについて、自分が経験したり、そのような話を聞いたりしたことがありますか。（〇は１つ）

「一般的な知識として知っている」の割合が 52.3%と最も高く、次いで「自分のまわりに経験した人がいる」の割合が 17.6%、「自分が直接経験したことがある」の割合が 13.8%となっています。



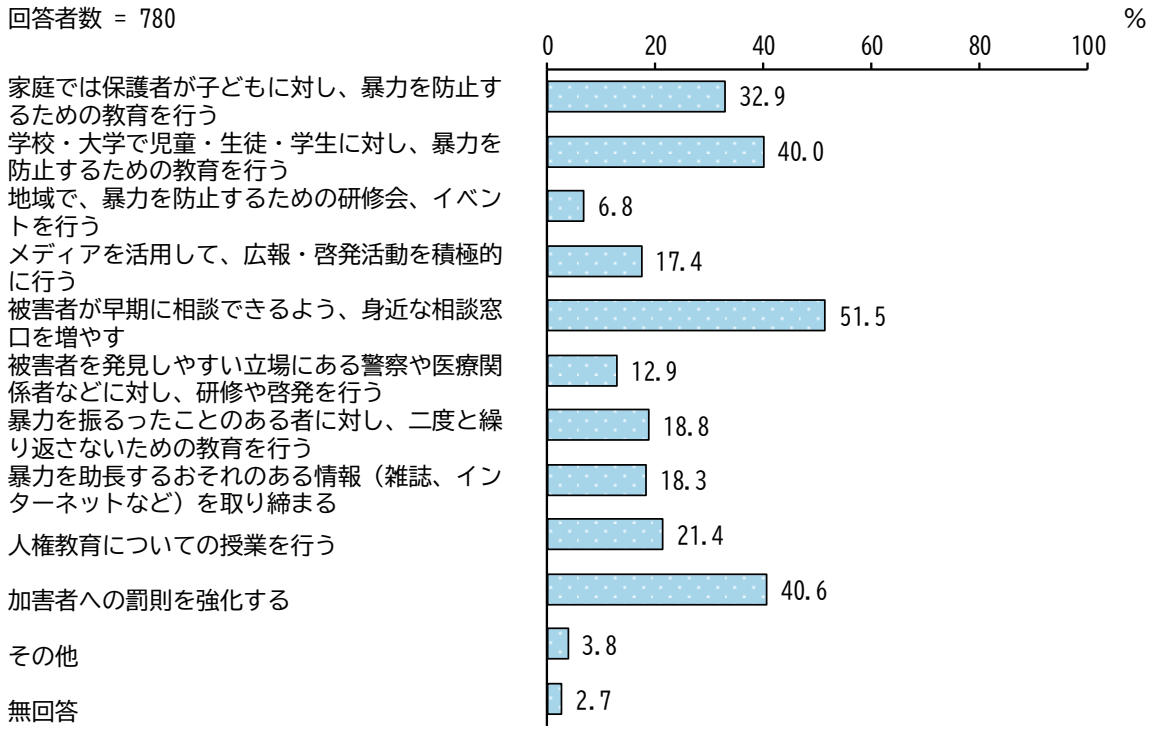
問 11. あなたはこれまでに、あなたの夫や妻、恋人などから次のようなことをされたこと、あるいはしたことがありますか。（①から⑩まで、○は各項目１つずつ）

『①大声で怒鳴る、暴言を吐く』『⑧話しかけても無視をする』で「されたことがある」の割合が、『⑦子どもやあなたの家族に危害を加えると言って脅す』『⑩生活費を渡さない』で「経験はない」の割合が高くなっています。



問 12. 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。（特に必要だと思うものから○を３つ）

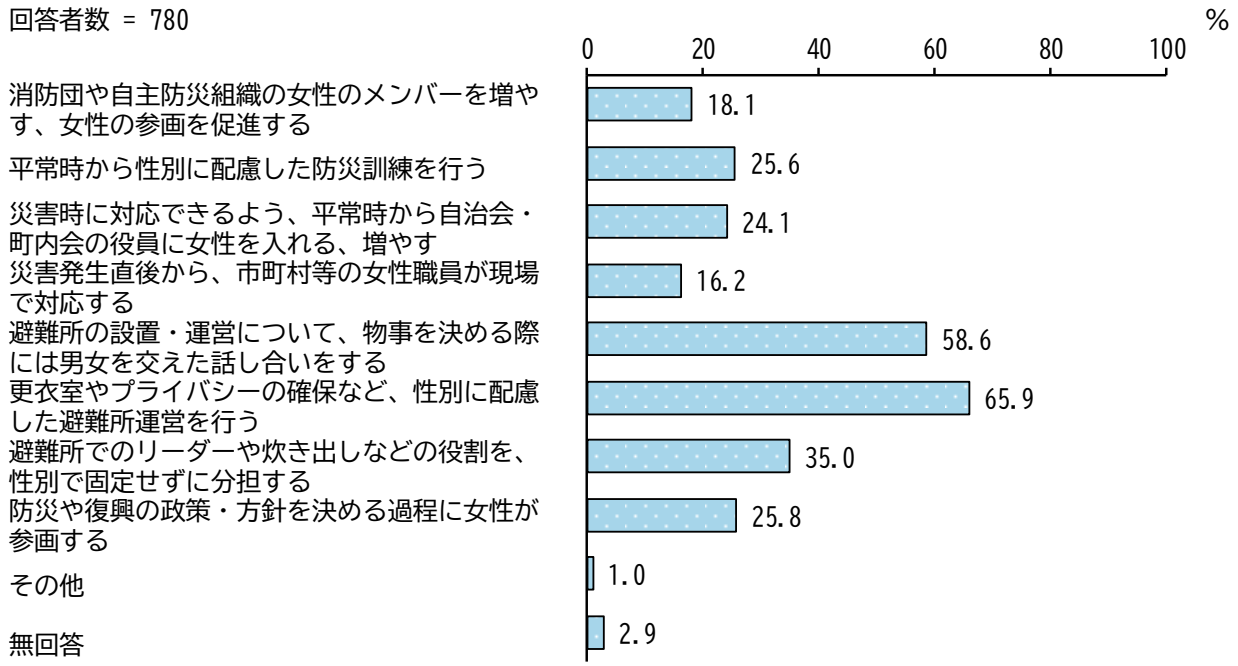
「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が 51.5%と最も高く、次いで「加害者への罰則を強化する」の割合が 40.6%、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」の割合が 40.0%となっています。



7　防災について

問 13.　性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のためにはどのようなことが必要だと思いますか。（○は３つ）

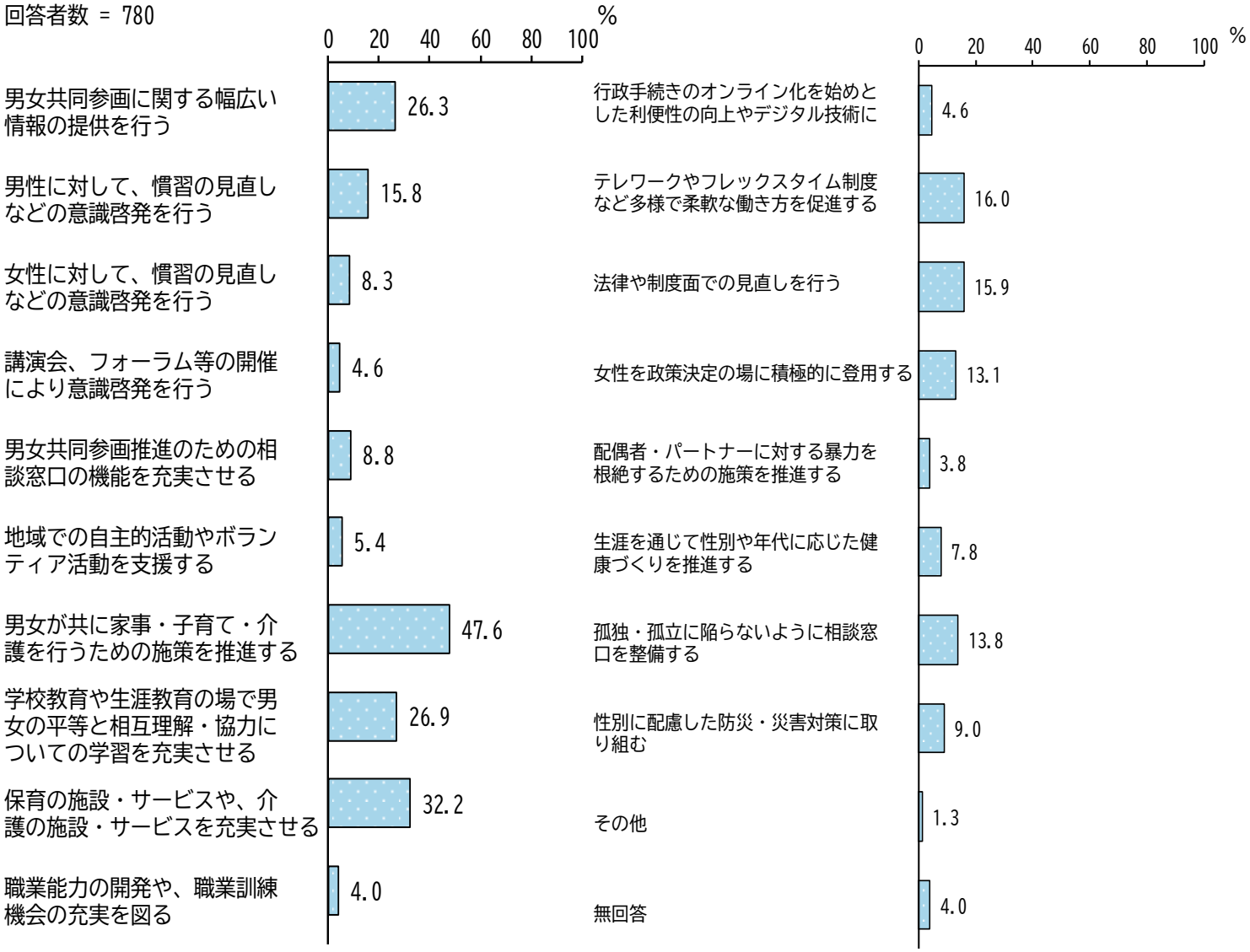
「更衣室やプライバシーの確保など、性別に配慮した避難所運営を行う」の割合が 65.9%と最も高く、次いで「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」の割合が 58.6%、「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」の割合が 35.0%となっています。



8　男女共同参画社会に関する施策について

問 14.　男女共同参画社会を実現するために、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（優先順位の高い項目から〇を３つ）

「男女が共に家事・子育て・介護を行うための施策を推進する」の割合が 47.6%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや、介護の施設・サービスを充実させる」の割合が 32.2%、「学校教育や生涯教育の場で男女の平等と相互理解・協力についての学習を充実させる」の割合が 26.9%となっています。

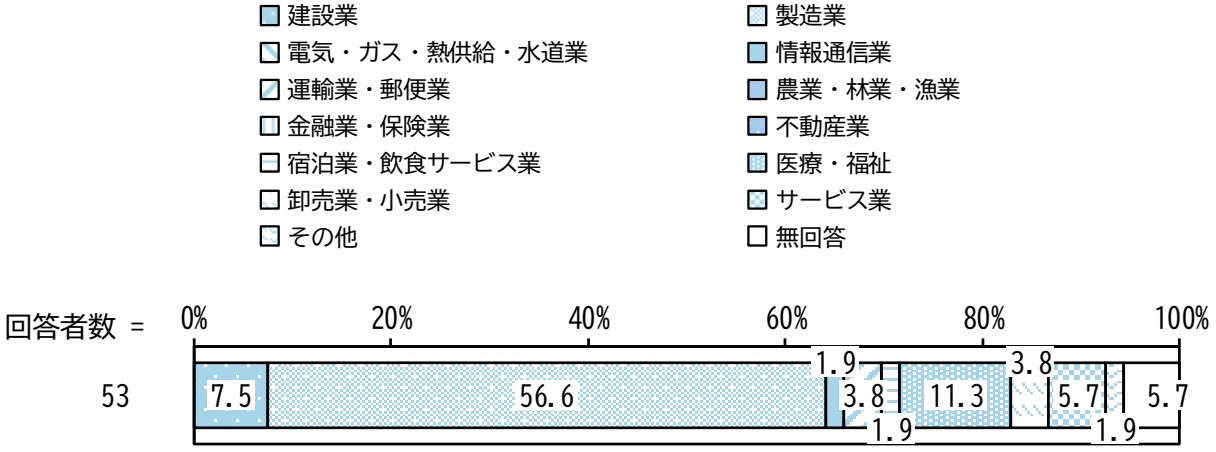


Ⅲ　調査結果（事業所）

１　貴事業所の概要

問２　貴事業所の主な業種について当てはまるものをお答えください。（○は１つ）

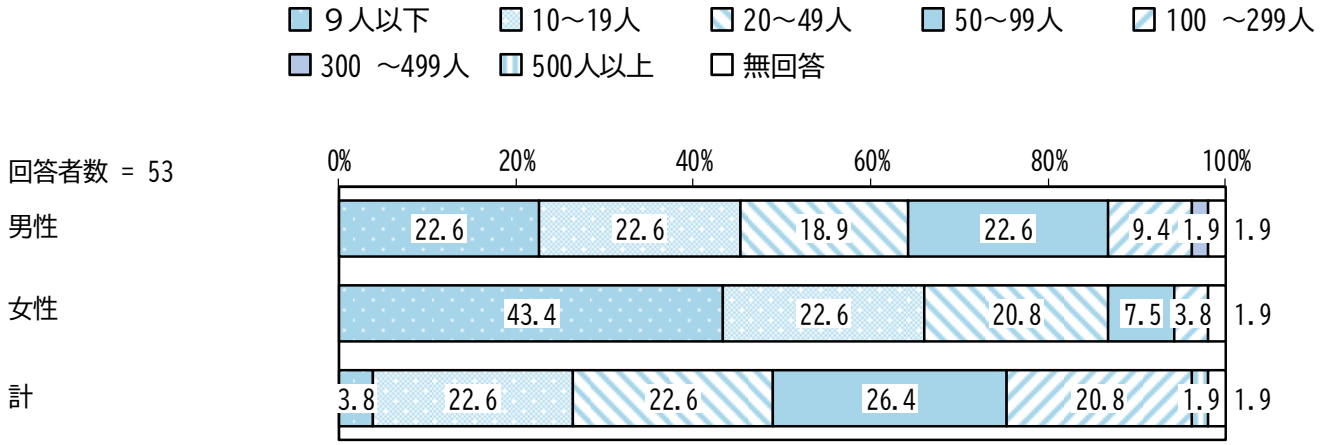
「製造業」の割合が 56.6%と最も高く、次いで「医療・福祉」の割合が 11.3%、「建設業」の割合が 7.5%となっています。



問３　貴事業所の従業員数等の状況をお答えください。（回答日時点）

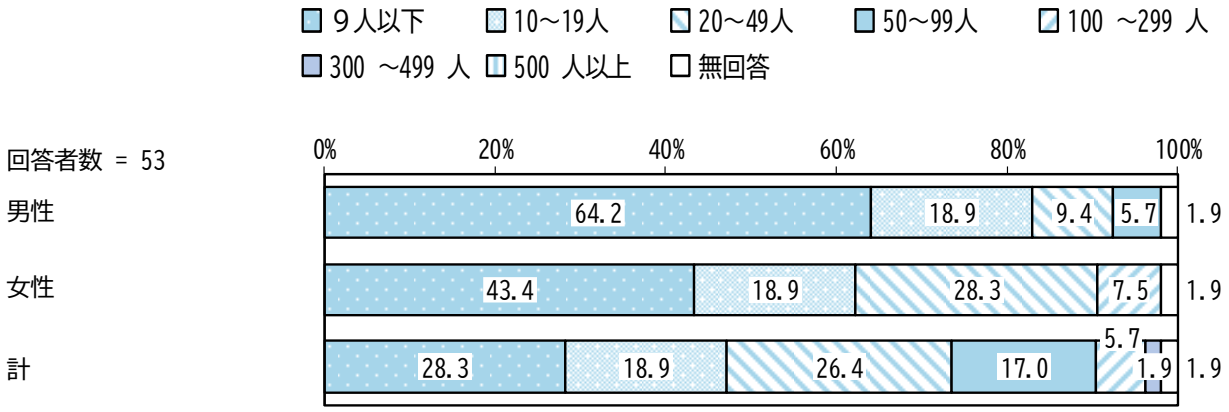
①　正規従業員

『男性』で「50～99 人」「100～299 人」の割合が、『女性』で「９人以下」の割合が高くなっています。



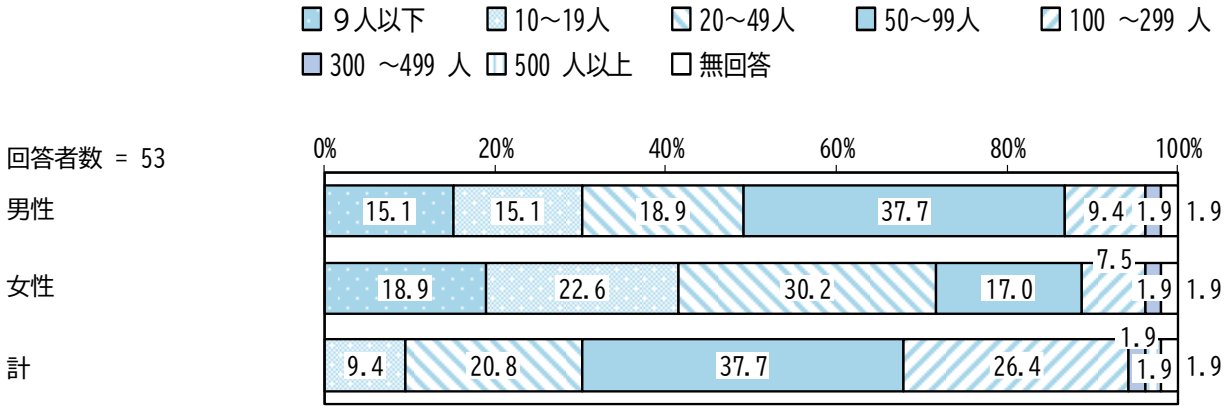
② **非正規従業員**

『男性』で「９人以下」「50～99 人」の割合が、『女性』で「20～49 人」「100～299 人」の割合が高くなっています。



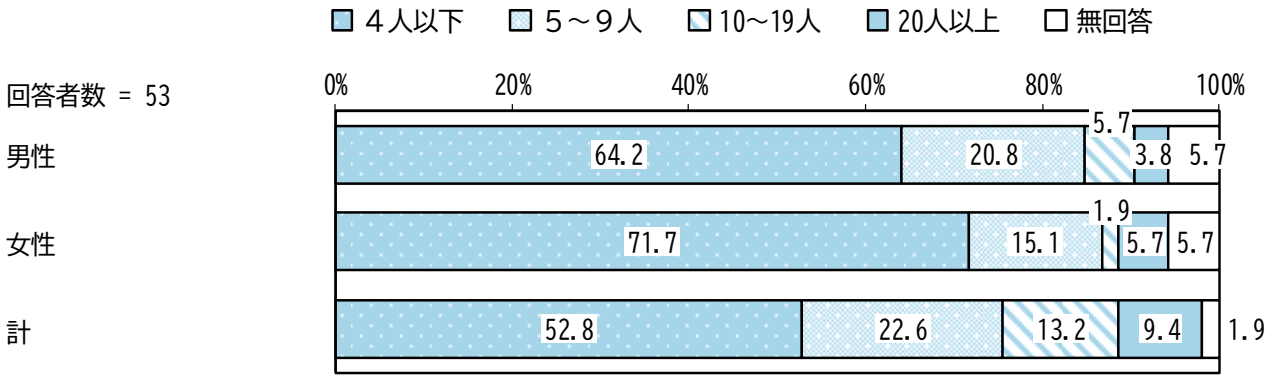
従業員合計

『男性』で「50～99 人」の割合が、『女性』で「10～19 人」「20～49 人」の割合が高くなっています。



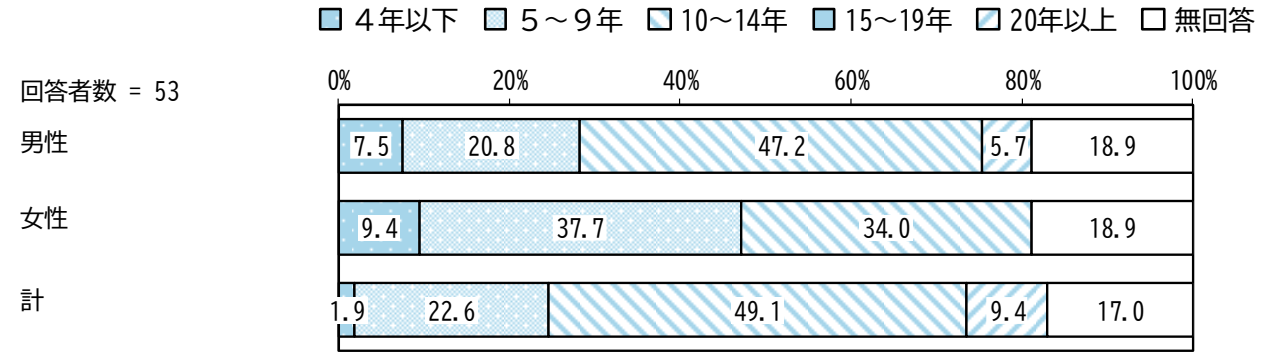
③ **令和５年度の採用者数**

『男性』で「５～９人」の割合が、『女性』で「４人以下」の割合が高くなっています。



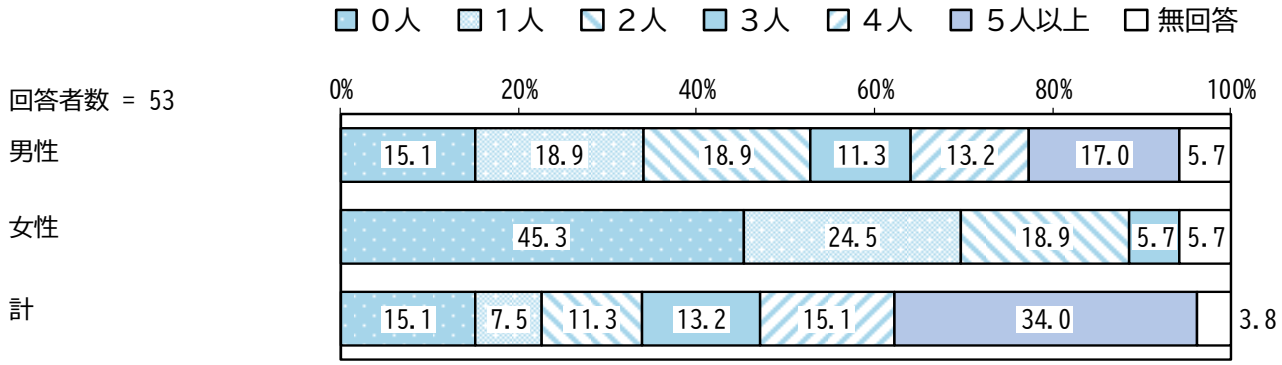
④　平均勤続年数

『男性』で「10～14 年」「20 年以上」の割合が、『女性』で「５～９年」の割合が高くなっています。



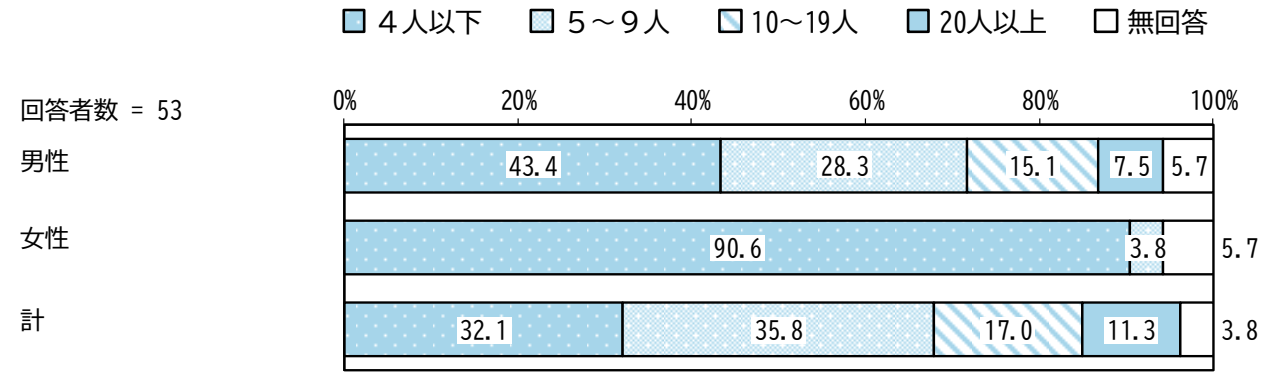
⑤　役員数

『男性』で「３人」「４人」「５人以上」の割合が、『女性』で「０人」「１人」の割合が高くなっています。



⑥　管理職数

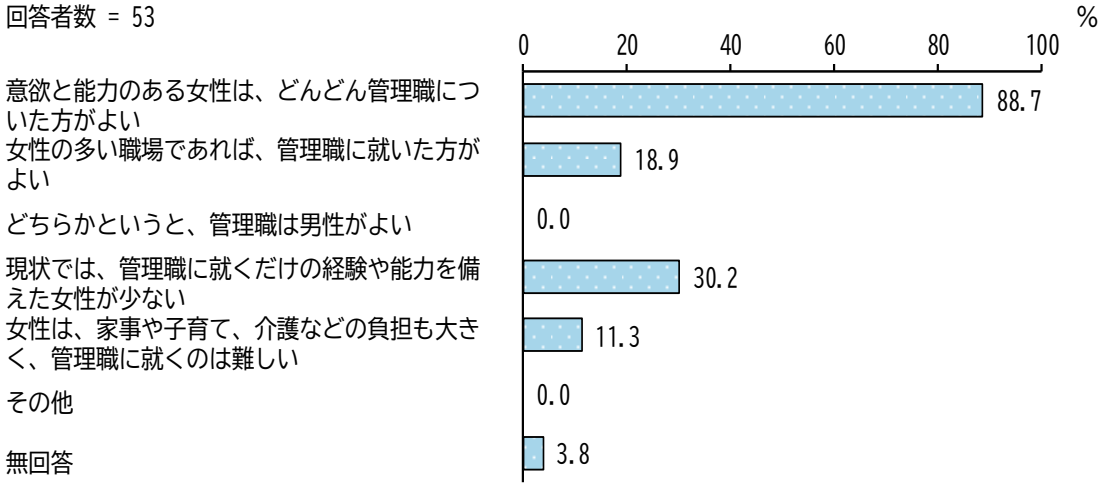
『男性』で「５～９人」「10～19 人」「20 人以上」の割合が、『女性』で「４人以下」の割合が高くなっています。



２　女性の活躍推進について

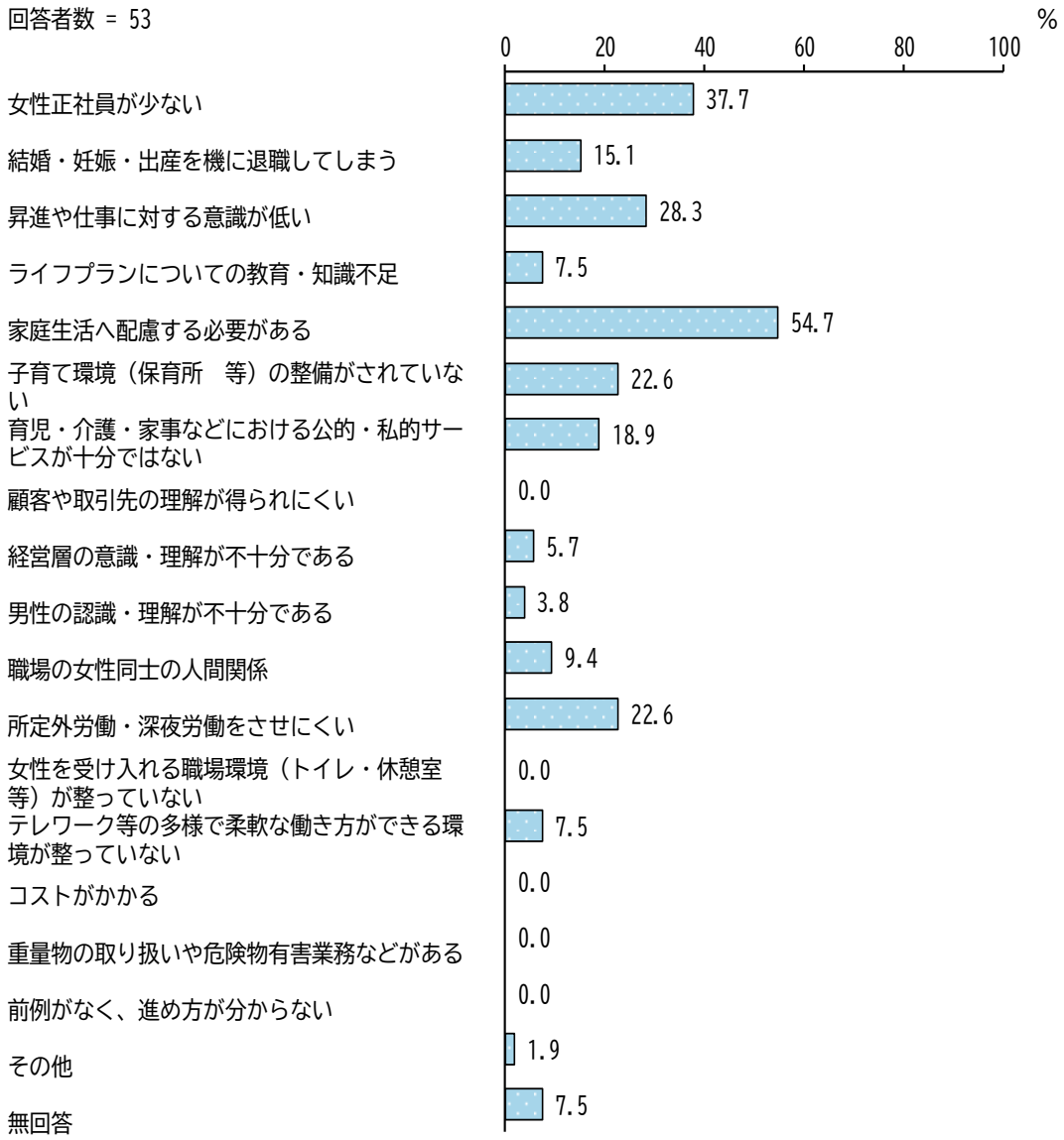
問４　貴事業所では、女性が管理職に就くことについてどのように考えていますか。（複数回答可）

「意欲と能力のある女性は、どんどん管理職についた方がよい」の割合が 88.7%と最も高く、次いで「現状では、管理職に就くだけの経験や能力を備えた女性が少ない」の割合が 30.2%、「女性の多い職場であれば、管理職に就いた方がよい」の割合が 18.9%となっています。



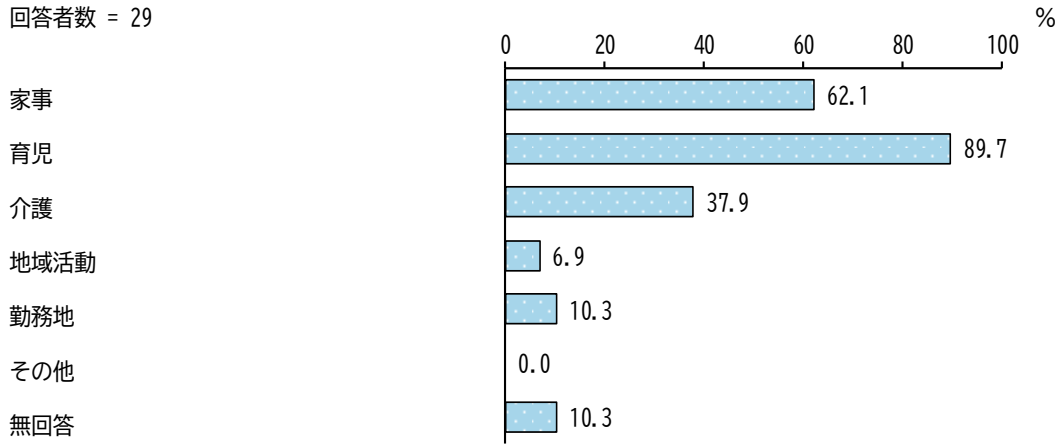
問５　女性の継続就労や管理職への登用など、女性の活躍を推進する上で、どのような課題があると思いますか。（優先順位の高いものから〇を３つ）

「家庭生活へ配慮する必要がある」の割合が 54.7%と最も高く、次いで「女性正社員が少ない」の割合が 37.7%、「昇進や仕事に対する意識が低い」の割合が 28.3%となっています。



家庭生活へ配慮する必要がある具体的になもの

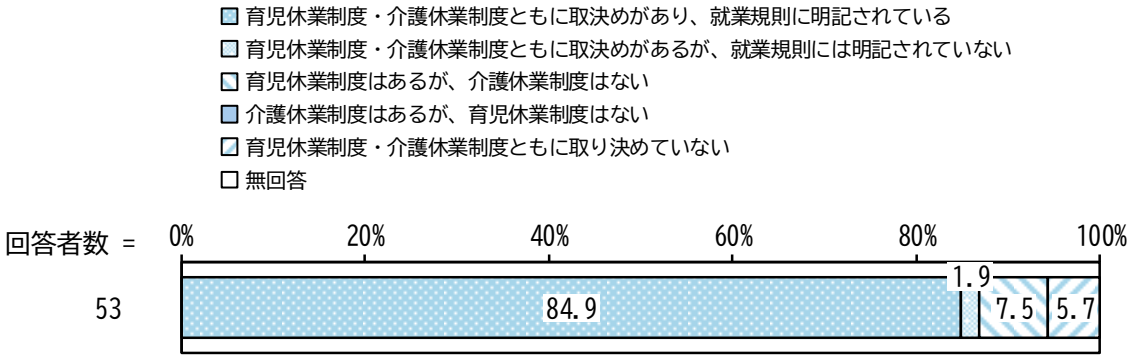
「育児」の割合が 89.7%と最も高く、次いで「家事」の割合が 62.1%、「介護」の割合が 37.9%となっています。



３　貴事業所の育児や介護に関する制度について

問６　育児休業・介護休業制度について当てはまるものをお答えください。（○は１つ）

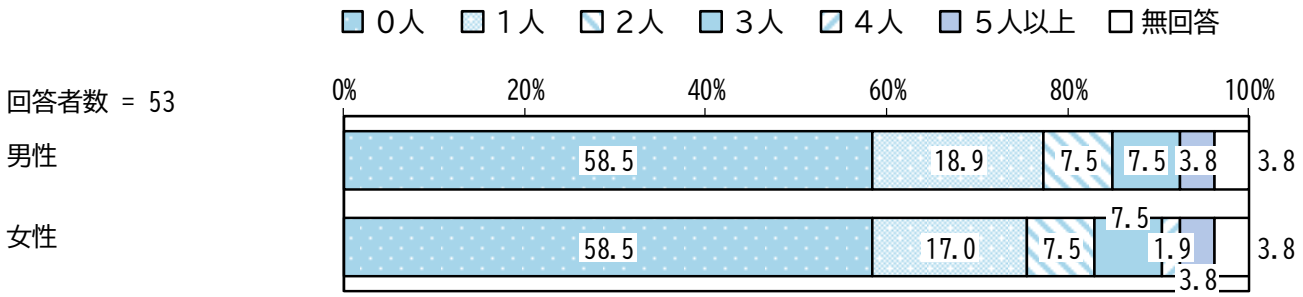
「育児休業制度・介護休業制度ともに取決めがあり、就業規則に明記されている」の割合が 84.9%と最も高く、次いで「育児休業制度はあるが、介護休業制度はない」の割合が 7.5%、「育児休業制度・介護休業制度ともに取り決めていない」の割合が 5.7%となっています。



問７　貴事業所において、令和５年度の１年間の間に育児・介護休業を取得した人数をお答えください。

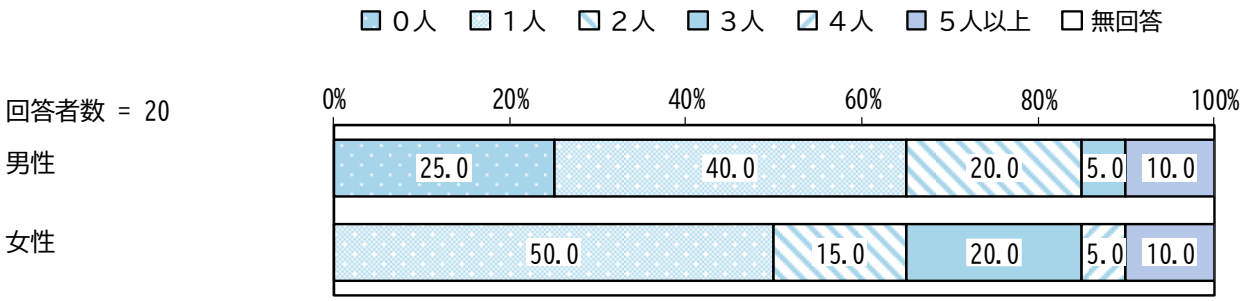
①出産者数（男性の場合は配偶者が出産した人の数）

『男性』『女性』ともに「０人」の割合が高くなっています。



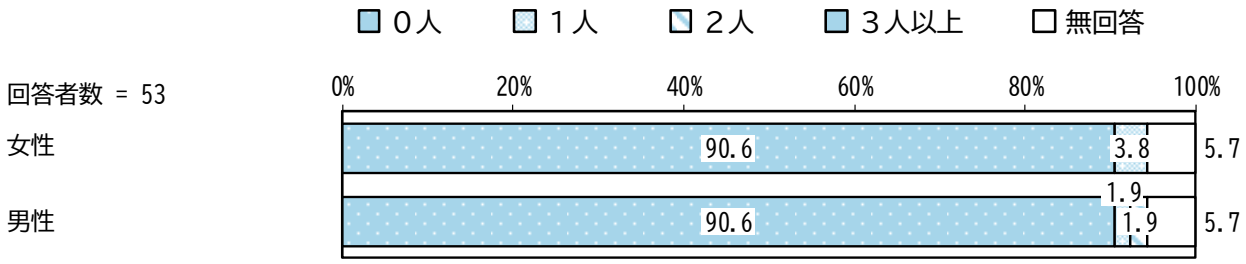
②うち、育児休業を取得した人数

『男性』で「０人」「２人」の割合が、『女性』で「１人」「３人」「４人」の割合が高くなっています。



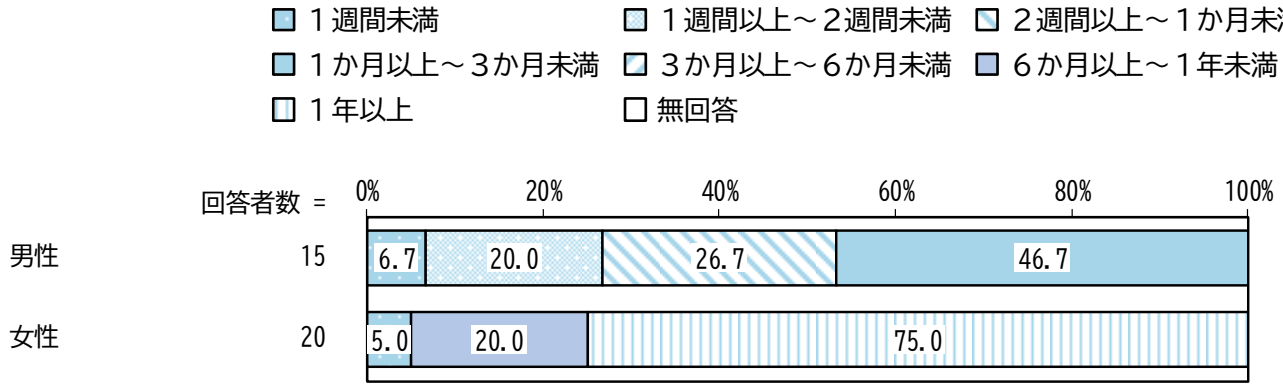
③介護休業を取得した従業員数

『男性』『女性』ともに「０人」の割合が高くなっています。



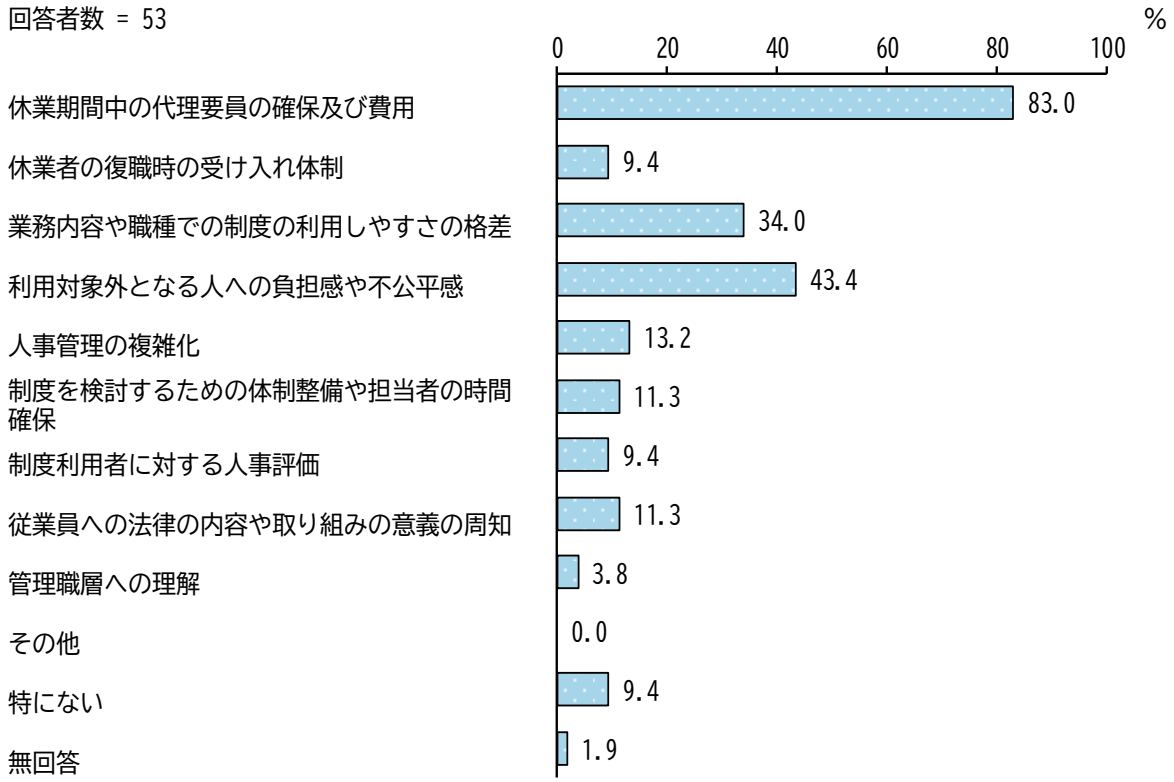
問８　問７において育児休業を取得した従業員・職員がいる事業所に伺います。男女それぞれの平均的な取得期間はどのくらいですか。（番号を１つずつ選択）

『男性』で「１週間以上～２週間未満」「２週間以上～１か月未満」「１か月以上～３か月未満」の割合が、『女性』で「６か月以上～１年未満」「１年以上」の割合が高くなっています。



問９　育児・介護休業制度を活用する上で、課題となることを教えてください。（優先順位の高いものから〇を３つ）

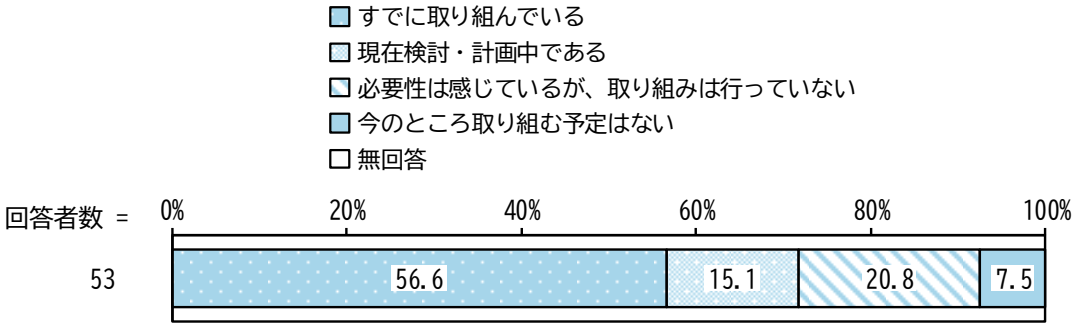
「休業期間中の代理要員の確保及び費用」の割合が 83.0%と最も高く、次いで「利用対象外となる人への負担感や不公平感」の割合が 43.4%、「業務内容や職種での制度の利用しやすさの格差」の割合が 34.0%となっています。



４　「ワーク・ライフ・バランス」について

問 10　貴事業所では、従業員の「ワーク・ライフ・バランス」に関する取り組みを行っていますか。

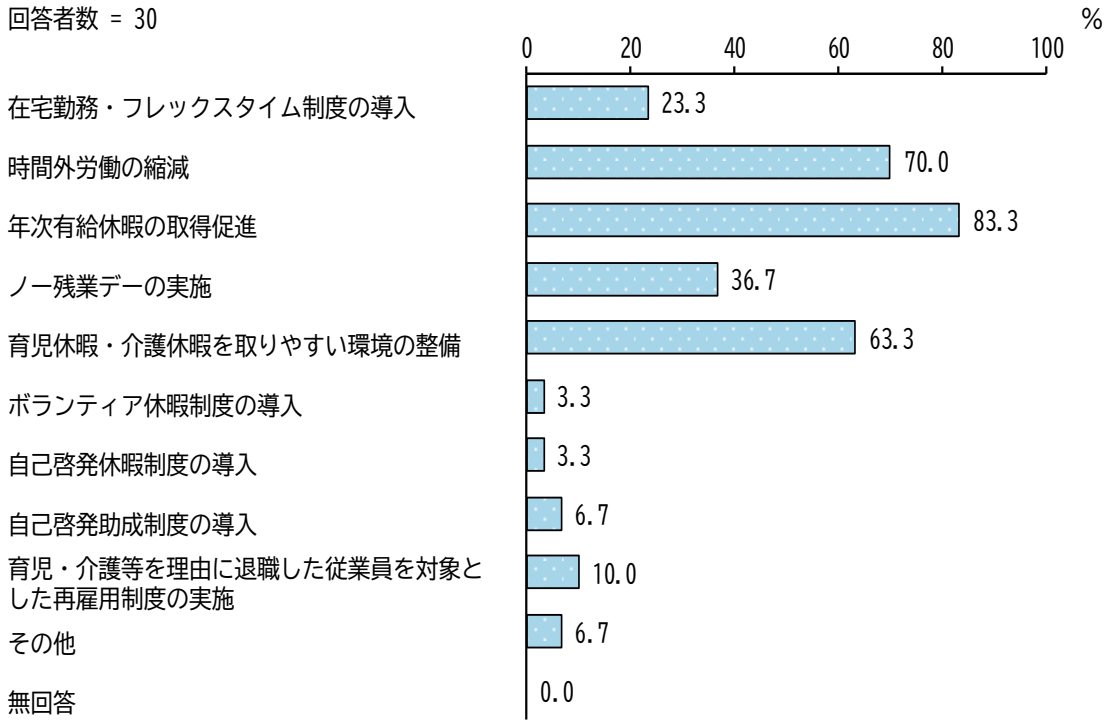
「すでに取り組んでいる」の割合が 56.6%と最も高く、次いで「必要性は感じているが、取り組みは行っていない」の割合が 20.8%、「現在検討・計画中である」の割合が 15.1%となっています。



問 10 で「すでに取り組んでいる」と答えた事業所にお聞きします。

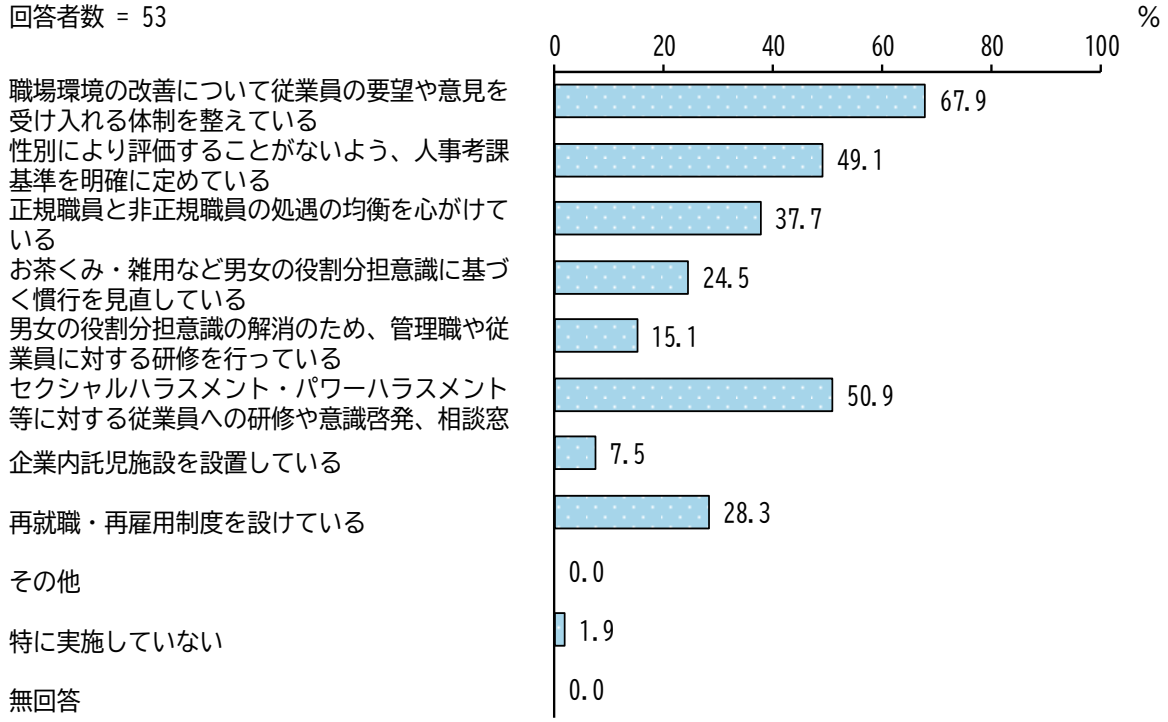
問 11　現在「ワーク・ライフ・バランス」に関して行っている取り組みはどのようなものですか。（当てはまるものに全て〇）

「年次有給休暇の取得促進」の割合が 83.3%と最も高く、次いで「時間外労働の縮減」の割合が 70.0%、「育児休暇・介護休暇を取りやすい環境の整備」の割合が 63.3%となっています。



問 12　男女が共に働きやすい職場環境・風土作りについて、何か取り組んでいることはありますか。（当てはまるもの全てに〇）

「職場環境の改善について従業員の要望や意見を受け入れる体制を整えている」の割合が 67.9%と最も高く、次いで「セクシャルハラスメント・パワーハラスメント等に対する従業員への研修や意識啓発、相談窓口の設置を行っている」の割合が 50.9%、「性別により評価することがないよう、人事考課基準を明確に定めている」の割合が 49.1%となっています。



恵那市男女共同参画に関する市民意識調査
令和７年１月

発行：恵那市役所
まちづくり企画部まちづくり企画部企画課